

# ENOKI

えのき



## 昔あそび もちもちの会 3/11

### 地域の皆さんと 春のお餅つき

毎年3月、牛込第二中学校の三年生の卒業を祝して、実行委員の生徒たちが学校でお餅つきを行っています。地域の大勢の子ども、大人も参加して中学生と一緒にお餅つき、昔あそびを楽しみました。

数日前からお餅つきの準備を始め、買い物から前日の米ときぎまで、中学生が行いました。当日は、朝早くからもち米を蒸し、お餅をつき、ついたお餅を手早く丸めて餡や黄粉にまぶし、パックに入れて参加者にふるまい、お茶の接待まで、大忙しの二日を過ごしました。

校舎の教室は遊び場となり、けん玉、コマまわし、めんこ、お手玉、すごろく、福笑い、将棋、百人首の昔あそびを、中学生が子どもたちに教えて一緒に遊びました。オリジナルのヨーヨー作り、紙ヒコキも人気がありました。春の陽差しが暖かな校庭では、大人も子どもも羽根つきに興じていました。

今回の昔あそび・もちもちの会は地域協働学校のチャリティバザーと同時開催となり、参加者が過去最高の三七五人になりました。

8月に「牛込二中えんにち」を開催します。企画から実行まで中学生が担当します。楽しみにしてください。中学生が事業をとおして地域の皆さんと親睦を深め、活躍できるように、皆さん方の応援をよろしくお願いいたします。

主催 早稲田地区青少年育成委員会  
協力 榎町子ども家庭支援センター

牛込第二中学校

# 東京初空襲余談

## 2

榎町 大竹良重(満九十歳)

当時、私は満14歳と3カ月、工業学校の3年生になったばかりであった。その私が、昭和17年4月18日(土)正午過ぎ(12時20分頃)には、牛込区早稲田鶴巻町(現在の107番地)にあった「康文社印刷所」という従業員80名規模の中堅印刷会社の玄関先に居た。(何故そこに居たかは少々説明を要するが本題から外れるので省略する)その時、何時もの音質と違うな(周波数が高い)と感じる、尋常でない音量の爆音がどこからか反響音も混じって、にわかには決めがたい方角から迫ってきた。(400メートル位の超低空で飛ぶB・25の1700馬力エンジン2基の全速回転を聞いたのである)その時、空襲警報は出ていなかったが、当時の戦勝ムードから米機の来襲など考えもしなかった。高射砲弾の炸裂音の様な音が連続して聞こえていたので脳裏には臨戦態勢の軍事演習がひらめいた、がその瞬間、突如、鶴巻小学校建物の西側の上空から、見慣れぬ、黒い大きな機体(逆光のせい、実際の色はカーキ)が姿を現した。とっさには、状況がつかめなかつた。その時、道路の反対側(鶴巻小学校側)に立って見上げていた康文社従業員の一人が「敵だ!」と絶叫に近い

声を上げた、「は」と現実を知った。目撃したB・25から西に向かっていたことなる。「これまで自分の耳と目で認識した直後、鼻にシヨックと痛みが走り血が流れ出るのがわかつた。何が起きたか分からず、立ちすくんでいた。出血を見たからと思うが、康文社従業員の方が走り寄って来るのが、ざわめきの中、ぼやつと見えた。直ぐに非常用ガーゼで止血していただいた。血が止まらないので、近くの「沖田病院(外科)」まで約百メートルの道をガーゼを押さえながら従業員の方と歩いた。病院に着いた時、院長先生の第一声は「何だ、鼻そげか」であった。戦時中の事で先生としては正直な表現をしたのである。私も気持ちが悪くなった。日本男児が小鼻が半分削げた位で「なんだと自分自身に言い聞かしていた所だった。当時は今の様に医療用の粘着テープもなかった様で、手当が済み顔左半分を包帯でぐるぐる巻きにされた。外見は重傷者になってしまった。そして院長先生には、600メートル程離れた自宅まで「人力車」を出して頂いた。当時は未だ個人病院にはお抱え車夫の方が居た。康文社の従業員の方には、人力車に付いて自宅まで送って頂いた。感謝の気持ちをどう表してよいか分からなかつた。人力車と包帯は、両親を驚かせた。大

怪我と思うのも当然なので、包帯を少し浮かせて見せ安心させた。初空襲では、軽い怪我をしただけでも話題になった。後日談だが、私が人力車で送られた事が、噂話では「戸板」で運ばれたことになっていた。時代劇の世界と混同されてしまった。クラスメーツをはじめとして、区会議員の方々も見舞いに見え恐縮した。怪我をした際の状況を自己分析した結果は、小鼻の怪我は眼鏡レンズが割れ断面が刃物状になり小鼻を削いだものである。私がB・25を目撃した時は既に焼夷弾は機体を離れ、1発(2キロ・エレクトロン焼夷弾)は、私の立って居た玄関先の庇を貫き、折れた木片が眼鏡フレームに当たった、フレームは飛ばずに(耳掛け部分の構造から)そのまま圧壊し、レンズが割れたものと考える。また後で、私の袖に焼けた様な筋があるのを発見した。焼夷弾は至近距離に落ちていたのである。もう少し寄っていたらと想像すると、分析と同時に僥倖に恵まれたことに感謝した。怪我をした直後の「ざわめき」はこの焼夷弾の消火活動であった。

多数の焼夷弾を束にした「集束焼夷弾」は、投下後空中で信管が働き解束して分散し、所期の密度で着弾させるもので、信管の作動は高度若しくは経過時間によってコントロールされる。B・25は超低空から投下しているのので、時間コントロールだと推測する。時刻的に見ると、早稲田中学校と岡崎病院及び康文社印刷所とは、少しずれて着弾したと思われる。これは早稲田中学校元生徒の方々の目撃談で明らかにされている。以下に引用させて頂くと、(早中の思い出)で、その時校庭にいた元生徒の方は、黒い機体が大隈講堂すれすれに飛来し、焼夷弾をおとした。すごい音がしたので、皆とっさに伏せた。同時に着弾する音がした。という趣旨の事を話している。別の元生徒の方は文章に残している。抜粋すると、「(十二時半頃)轟音に驚き教室を飛び出し、空を見上げると、校舎と校舎の間を黒い大きい飛行機が一瞬過ぎ去っていった。教室に戻ろうと思ったその時、すぐ前の地面に銀色の筒が突き刺さり、とたん火を吹き始めていた」この大隈講堂をすれすれに飛来したという証言を考慮すると、その時の飛行コースは、鶴巻小学校上空から大隈講堂付近で機首を西南西に向けたことになる。

他に、戸塚第一小学校生徒はB・25の後姿を、戸山小学校生徒はB・25が東から西へ中央線大久保駅の方角に飛行したことを目撃している。

# 道徳授業地区公開講座

2月3日(土)に、道徳授業地区公開講座を行いました。今年度は、多くの保護者・地域の皆様が参加しやすいように、新しい取組を行いました。それは、2校時に低学年が、保護者・地域の方と一緒に講演を聞き、高学年が道徳の授業を受け、3校時には、その反対に高学年が、保護者・地域の方と一緒に講演を聞き、低学年が道徳の授業を受ける、という取組でした。そのためには、講師の先生に、低学年・高学年それぞれに合わせた講演をしていただく必要があります。全盲であるパラクライミング世界チャンピオンの小林幸一郎先生にご講演いただく計画を進めていましたので、小林先生に2回の講演をお願いしたところご快諾いただき、この取組が実現したのです。

小林先生は、低学年には、○×クイズ形式で、3つの質問をくださいました。



## 第1問

**私が子どものころ、苦手だった教科は体育である。**

答えは、「○」でした。子どものころは、体育が苦手で、走るとビリになっていたそうです。しかし、現在は世界チャンピオンとなり、今嫌いなものも大人になったときには、変わるかも知れないというメッセージをくださいました。

## 第2問

**私は、目の前が真っ暗である。**

答えは、「×」でした。子どもたちに両目を閉じたまま、暗幕が閉じている北側と光が注ぐ南側に交互に体を向けるように指示がありました。子どもたちからは、「少し明るく見える。」など驚きの言葉が聞かれ、小林先生から、全く見えない訳ではなく、皆さんが南側を向いているときくらいは光を感じることができるとお話がありました。

## 第3問

**私は、自宅から曙橋駅まで一人で電車できた。**

答えは、「○」でした。「一人でできることがたくさんあるけれど、困っているときには、声をかけてもらうととっても嬉しいです。そのときは、『大丈夫ですか?』ではなく、『何かお手伝いしましょうか?』と声をかけてくれるとお願いをしやすいです。」とのことでした。

高学年には、ご自分の子ども時代から、世界にチャレンジするまでの生い立ちをお話していただきました。



子どもの時には、やりたいことも好きなこともなかったそうです。高校生の時に夢中になれるものを探していると、書店でクライミングの本と出会い、見える景色のあまりの美しさに魅了され、本に書いてある団体に電話をしてクライミングの世界に飛び込んだそうです。たくさんの仲間に恵まれ、やっと見つけた楽しみを満喫していた矢先、28歳の若さで、目の病気が見つかり、近い将来失明してしまうという出口の見えないトンネルに入り込んでしまったそうです。あるとき、アメリカのエリックさんとという全盲の人がエベレスト登頂を成し遂げた話を聞いたそうです。大きな衝撃を受け、エリックさんにメールをしたところ、返信があり、対面する機会を得たそうです。エリックさんから、「日本には少ないパラクライミングを広めていくことが、あなたにできることだ。」と励ましの言葉をもらい、この道に進むことで長いトンネルから脱出できたそうです。

その後、世界大会で優勝するまでに鍛錬し、現在は現役の選手を続けながら、普及活動にまい進しているとのこと。この日、牛込仲之小学校で全校児童にお話をしてくださったのも、子どもたちに届けたい思いを伝えるためとのことでした。ご講演の後、子どもたちに金メダルを触らせてくださいました。子どもたちにとって、視覚障害のある方の気持ちや自分の生き方などに思いや考えを深める貴重な経験となりました。

# ありがとうさようなら

江戸川小学校は、1〜6年生がいつしよに活動する縦割り班交流がとて盛んな学校です。この縦割り活動を「なかよし班と呼んでいます。全校遠足に行ったり一緒に遊んだり、あいさつ隊にも取り組んでいます。班をまとめるのは、6年生の役割です。「なかよし班活動」があるたびに活動を企画し、下級生に声をかけます。当日の運営も6年生が行います。毎年行っているので、6年生になつたらやらなければならない大きな仕事です。そのため、6年生は下級生の憧れの存在です。



江戸川小学校を牽引してくれた6年生に向けて「感謝の思いを互いに伝えるお別れ給食」次の学年にバトンを託す6年生を送る会」が卒業を前にあります。在校生は、今までお世話になった6年生に楽しんでほしい、卒業後も思い出に残る会にしたいと、代表委員会を中心に装飾や出し物の準備をすすめます。6年生も、江戸川小への感謝と在校生へのメッセージを込めて、出し物の準備をします。互いの想いを通じ合うような温かい会です。

「6年生の皆さん、今までありがとう。そしてさようなら。」

## 七輪体験

3年生の社会科「変わってきた人々の暮らし」の学習で七輪体験を行いました。

七輪を見るのは初めての子供も。地域の方々の説明を一生懸命、食い入るように聞いていました。まずは七輪の中に新聞紙を軽く丸め、その上に割り箸を置き火をつけ、小さな炭、大きな炭の順に入れていきました。七輪の側面にある小さな窓のようなどころ(空気口)にうちわであおぎ空気を一生懸命送ります。なかなか火がつかず苦戦。火がついたときには子ども達は大喜びしていました。さて、お待ちかねの自分たちで持ち寄った食べ物焼くことになりました。マシマロ、ほし芋、ウィンナー、りんごなど思い思いのものを子ども達は七輪の上で焼いて食べました。「ちょっと焦げちゃったけどおいしい。」「焦げたところがいい。」などいろいろな感想を聞かせてくれました。最後にみんなでお餅を焼いていただきました。

子ども達はこの授業を通して道具の使い方、工夫されている所を学ぶことができたと思います。たくさんボランティアの方々協力により、安全に「七輪体験」の授業を終えることができました。ありがとうございました。





# 早稲田地区青少年育成委員会

## 人形劇



1月27日(土)に『劇団員の火』による人形劇「ねずみのすもう」と、ピクニックに「いこう」を上演しました。幼児が多く、大人と子ども76人が人形劇を楽しみました。

1月はインフルエンザが流行し、人形劇を楽しみにしていた多くの子どもが会場に来られませんでした。子どもたちが入場する際は手洗い、うがいをしてウイルス対策をしました。

「ねずみのすもう」は、すもうでいつも負けていた小さなねずみのチュー太が、みんなに元気をもらって、大きなねずみのチュー助に勝利するというお話でした。チュー助を応援する子どもたちの声が場内に響きました。

終演後は、子どもたちが人形たちとお別れの握手をしました。実物の人形に直にふれることができて、とても嬉しそうでした。

## 榎クリーンデー

毎年3月の第一日曜日は「榎クリーンデー」の日です。私たちの住む町は私たちがきれいにしよう！の呼びかけで、今年も3月4日(日)に榎町地区全域の一斉清掃が行われました。

掃除に参加したのは子どもと大人で596人、朝の9時から始めてわずか30分間で、町は隅々まできれいになりました。

道路に落ちていたのは、投げ捨てのタバコの吸い殻、パンやお菓子の空き袋、空きカンなど、それを拾っていく子どもたちは「何でこんなものを捨てていくのかな」と言いながら、ていねいに掃除していました。

榎クリーンデーの日だけでなく、いつでも皆で、私たちの町をきれいにしていきたいでしょう。



## 日本の伝統文化を楽しむ会

2月17日(土)、榎町地域センターにて「日本の伝統文化を楽しむ会」を開催。落語家さん二人に、古典落語を演じて頂きました。

「古典落語」って難しいのかな？と、初めは緊張して聴いていた子どもたちも、飛び入り参加の小学生と大学生が落語家さんからソバを食べる所作や音の出し方を教わり、上手に演じていたのを見て感動して拍手を送っていました。

昔のそばを使う古典落語、子どもたちには聞き覚えのないことばでも、知らないうちには断の核心に入っていく、笑う所が分かる。不思議な感性が子どもにはあるんだなと感じました。扇子と手拭いだけで、何人もの登場人物を演じ分け、風景描写も一人できなす落語家さん、その話芸を皆で楽しみました。(74人参加)



「落語が大好き。帰国前の良い思い出になった」  
早稲田大学に留学中のアメリカ人の大学生



春風亭正太郎『初天神』



まねるだけでなく、独自のそば投げ演技を披露した小学生



柳家小はぜ『牛ほめ』

## 1 改代町のお稲荷さん

お稲荷さんのお祭りは初午・二月の初午に行われるものと思っていたのだが、改代町のお稲荷さんは、どうして4月の初午に行われるのかと思いついてみようと思った。

調べるといつても資料が無ければ不可能なことだが、現在では鬼籍に入っておられる鈴木兼次郎さんと伏見弘さんが詳しく書き残しておいているのでそこから抜粋して紹介してみようと思う。

初午というのは、2月の初午の日に京都の伏見稲荷大社の神が降りた日がこの日であったと言い、全国で稲荷社を祭ったものです。

以前から改代町の共有地になっていた43番地の土地は隣地の地主、関根新助、金森伊兵衛、福島次郎の3名連記で登記されていたが、現在では亡くなった方もおられ、その度に登記のし直しの煩雑さと多額の出費があるのでこれを避けるため町会を法人にし、この土地と建物を町会のものとした。これは余談です。

改代町のお稲荷さんの正



式名称は牛込稲荷神社といえます。事実、牛込稲荷神社は明治維新前から永く改代町14番地に祭られてあった。明治初年この社は荒れはてて通寺町行願寺の境外神社となっていたが、神仏混合禁止となつたため、寺側は神社を分離したので、協議の結果、御神体を当時氷川神社に勤めていた神官椎名直胤氏に預けた。椎名氏はその後、青山の熊野神社神職になったが、預かった御神体を守り続けた。

明治41年椎名神官から「老齢になった直胤氏が自身の手で、御神体を改代町にお返しして遷宮鎮座を努めたい」との希望があり、改代町の親睦同盟会では、当町の共有地に御神殿を造ってお迎えしました。

その当日が明治42年4月午の日であったため、それ以後牛込稲荷の祭礼は4月の午の日となったといわれています。

現在では4月の第二日曜日に赤城神社の宮司が来て祝詞をあげ賑やかにお祭りをしてもらっています。

高齢者クラブでいきいき、  
元気に暮らそう

24

榎地区の高齢者クラブの最近の活動状況をお知らせします

### \*平成29年度第26回 輪投げ大会

榎地区からの参加チームは12チームで、弁天町和老クラブが(251点で3位。榎町友の会が9位、早南クラブが10位にそれぞれ入賞しました。おめでとうございます。

他の榎地区の参加チームは次のとおりです(成績順)

・西鶴クラブ、・早稲田永楽会、・早稲田長寿会、・山吹会、・薬王寺長寿会、  
原一わらく会、あかぎ友の会、牛込心友会、柳町すみれ会。

### \*第59回「将棋大会」の成績

平成30年2月4日(日)に開催された第59回将棋大会において、榎地区の次の方が上位に入賞されました。(敬称略)  
おめでとうございます。

① Aクラス 優勝 副島 健 八段 薬王寺長寿会  
② Bクラス 該当者なし

### \*第59回「囲碁大会」の成績

平成30年2月18日(日)に開催された第59回囲碁大会において、榎地区の次の方が上位に入賞されました。(敬称略)  
おめでとうございます。

① Aクラス 優勝 吉成久男 六段 柳町すみれ会  
同 準優勝 三木 忠 七段 柳町すみれ会  
同 第三位 鈴木 理 五段 柳町すみれ会  
② Bクラス 該当者なし

早稲田地区  
青少年育成委員会

## お知らせ

### みんな集まれ釣り大会

小学生、中学生の皆さん！お父さん、お母さん、友だちと一緒に市谷の釣り堀で鯉つりを楽しみませんか。

●日時 6月17日(日)

雨天の場合は翌週24日に実施

釣り時間 9時～11時

●集合 8時 各小学校校門

会場への往復は育成委員が引率

保護者と共に参加する児童は8時40分に市谷フィッシュセンターに集合

\*参加は無料です(交通費自己負担)

\*詳細については、五月に学校から配布される案内・申込み書をご覧ください

### 子ども防災キャンプ

災害に備え、防災の知識を学びましょう。消防の仕事や応急給水施設を見学、消火や応急救護、通報、避難時の食などを体験してみませんか。

●日時 7月8日(日)9時～13時

●集合 8時30分 鶴巻南公園

●会場 鶴巻南公園

榎町地域センター4階ホール

●対象 小中学生

\*詳細については、五月に学校から配布される案内・申込み書をご覧ください。

## スポーツ交流

### お知らせ

### ユニカール・輪なげ

●日時

①5月6日(日)

②5月20日(日)

③6月3日(日)

④6月17日(日)

⑤7月15日(日)

⑥7月22日(日)

⑦7月29日(日)

●会場 榎町地域センター  
4階多目的ホール

### 卓球

●日時

①5月6日(日)

②6月3日(日)

③7月1日(日)

④7月10日(日)

●会場 早稲田小学校体育館

\*ラケット等の用具は会場に用意してあります。

\*事前の申込みは必要ありません。

当日、会場にて参加を受け付けます。運動のしやすい服装で上はきを持参ください。

問合せ 黒川 孔晴

TEL 03(3268)1777

主催 せせだスポーツ・文化協議会

## 榎町地域センターからのお知らせ

### ワンコインえのき寄席

「若手落語会」

日時：6月17日(日)

開場：午後2時30分

開演：午後3時

会場：榎町地域センター

4階 多目的ホール

入場料：500円

定員：120名

出演：柳家圭花

柳家小はぜ

\*チケットは5月1日(火)より榎町地域センター2階事務局で販売します。

### 納涼カラオケ大会

日時：7月29日(日)

午前10時～午後4時

会場：榎町地域センター

4階 多目的ホール

参加費：300円

募集：72名

榎町地域センター

4階 多目的ホールにて受付

申込み：7月1日(日)午前10時より

\*申込みは5月17日(木)より

榎町地域センター2階事務局にて配布します。

## 「春から夏まで」

### の作品募集

榎町地域センターでは、館内展示用として秋から冬までの地域の写真、絵画、切り絵等の作品を募集しています。皆様がかつてに撮影又は作成をした地域の作品をぜひお寄せください。

サイズ 概ねA4からA1くらいまで

提出方法 額縁に入れ、撮影者又は作成者、タイトル、場所をご記入の上、榎町地域センター2階事務局までお持ちください。

提出期限 平成30年6月30日まで

展示期間 提出後概ね2週間から1か月間くらいまで

展示場所 榎町地域センター

留意事項

●作品は丁寧に扱いますが、万が一破損等した場合であっても、責任は負いかねますので、提出に当たっては、この点ご留意ください。

●作品の内容によっては、展示をお断りさせていただく場合がございます。

●提出数に上限はございませんが、より多くの方の作品を展示したいと考えておりますので、あらかじめご了承ください。

●提出いただいた作品は、展示期間終了後、お返しいたします。

●作品の時代は問いません。昔日の榎町地区の様子が分かる作品があればぜひお持ちください。

# えのき文芸



啓蟄や昭和も遠くなりけり

青木 久弥

包まれて友の便りは露のとう

大籠 紀子

雪柳白き愁ひを吹きこぼす

加藤 理君

山桜桃雨に打たれて散り果てぬ

軽部 とみ子

エリカ咲く小泉八雲終焉地

川口 あきを

こも焼や春うかがへし火の向ふ

北村 妙子

日脚伸び長居を詫びて帰る友

木村 かづこ

巣立ちゆく子等の顔皆輝けり

久根下 和子

答辞読む声伸びやかに卒業す

梨平 美沙子

鉄塔の影が揺れるる春夕日

水上 香子

落のとう残雪横に咲き香る

山口 敏子



いまさらに愛を語ると言うお人

ごつい手やお金で買えぬ誉の手

大籠 紀子

味噌汁が佃煮となりおあわて

寒くても笑顔がこころ温める

奥瀬 イチ

シャンシャンが今日は可愛い子がおいね

目出度いな初孫に買う鯉のぼり

管野 あきら

不本意な結果次へのバネとする

健やかな日々感謝の共白髪

小山 一湖

足腰が加齢と言われサプリア飲む

書くよりもメールで済めば誤字も増え

田実 孜



良い年になりそうもなし節分会

鬼打つ豆に力こもれり

青木 久彌

幼き日父母と渡りし太鼓橋

藤のさかりを夫と渡りぬ

加藤 千代子

か黒き枝に赤きまどかな答おき

一輪の梅ほころび香る

金成 光祥

梅香る道灌坂を登り来て

芝生の庭に往時をしのぶ

山口 敏子

## 春の花

### ハクモクレン (白木蓮)

モクレン科の落葉高木。中国原産。三〜四月頃白色の大形花を開く。花被は花弁・萼片合わせて九枚。



「家族の肖像」「技の伝承」「地域の歴史」の企画記事の情報をお寄せください。

広報誌「えのき」に関するご意見やお問い合わせ、情報提供も榎町地域センター事務局までお寄せ下さい。

「えのき」文芸に掲載の作品を募集しています。次号の俳句のお題は『夏』、川柳は自由吟です。投稿はハガキかファックスに、俳句・川柳の別を明記の上、6月10日(日)までに榎町地域センター事務局までお送りください。

〒162-0042  
新宿区早稲田町85  
TEL (3202) 8585  
FAX (3202) 2478